全日中「北海道大会」第７分科会「教職員研修」

① 研究題

　「多様化した学校教育課題に対応できる

教員の育成」

② テーマ

　「小規模校における若手教員の育成」

③ 発表者

　広島県江田島市立三高中学校長　沖元　成寿

１　はじめに

　現在の社会において、多様化・複雑化した学校教育課題への対応に向けた教職員の資質・能力の向上が求められている。また、教員の年齢構成に不均衡も生じており、若手教員の人材育成が本市の喫緊の課題となっている。

　そこで、市内校長会のリーダーシップの下にＯＪＴによる人材育成の推進に取り組んだ。

２　学校、地域の状況

本市には、６小学校、４中学校、１県立高校があるが、児童生徒数は減少傾向にある。また、全ての小中学校が小規模校である。

一方、毎年、新採用教員の配置がある。また、管理職を除く教員の平均年齢は36.3歳で、20・30歳代が多く、教員の年齢構成が不均衡である。

それ故、教職経験10年未満の教員が主任・主事を担う必要や若手が学校運営に係る知見や経験を獲得する場を意図的に設定する必要もある。

３　実践の概要

（１）江田島市中学校長会の取組

① 学校訪問の取組（年間４回実施）

　　全校長で各校を訪問して、学校経営の方針への理解や授業改善に係る交流などをとおして、人材育成を図っている。

② 主任・主事の育成

各校で組織されている委員会や担当会を時間割内に位置付け、定期的な協議を担保し、各分掌機能の向上促進を図っている。

③ 新採用教員等の育成

増加する新採用教員の校内研修を、組織的、計画的に実施している。また、校務分掌の割振りについて配慮している。

④ 江田島市中学校教育研修会

全教員年間１回の研究授業や評価の在り方や効果的なICT活用の研修を実施している。

⑤ 「さとうみ勉強会」

江田島市小中学校長会で、管理職等の育成のための自主的研修会を実施している。

（２）江田島市立三高中学校の取組

① 人事評価制度の活用

　教員１人１時間の個別面談を実施するなどして各教員の適性を見極めている。

② 協働的な学習への取組

　　協働的な学習を研究主題に位置付け、特に若手教員の授業力向上に取り組んでいる。

③ ＩＣＴの活用

「ICTを活用した言語活動プロジェクト」の本県指定校として、全教科で取り組んでいる。

４　実践の成果と課題

（１）成果

　　① 各校関係教員のスキルアップへの意欲が向上した。

　　② 学校全体で主任・主事や管理職等の育成（登載者増）が促進できた。

　　③ １時間の面談等により校長と教員との良好な人間関係を構築できた。

　　④ 協働的な学習の取組によって若手教員の意欲を向上できた。

（２）課題

　　① 年度をまたいでも各取組を継続できる仕組みや組織作りが必要である。

　　② 若手教員の経験に基づく自信の獲得が必要である。

　　③ 実践研究の在り方について、研修の充実を一層図る必要がある。

講評　　東京都世田谷区立尾山台中学校長　福山 隆彦

　●学校の枠を越えた教育実践の学び合いの取組、●中学校長会や市教研の組織的機能を活用した人材育成の取組など、学校のマネジメント機能の向上にも大変有効である。また、各取組は教員の自己啓発を促進し、個々の職能を高めたいという意欲を確かに向上させているものと推察できる大変有意義な実践、研究である。

報告者　　菊野　大（春日部・江戸川小中）